

音楽を工場へ農村へ - 産報合唱指導の報告

卓声会主宰 秋山日出夫
「音楽の友」昭和17年6月号

今日、更生音楽として各都市地方の工場への音楽進出は実に目覚ましいものが有り、各工場当事者に於かれても、音楽の必要重大性に目覚められて、其の能率増進工員諸氏の健康に娯楽に競って音楽を採用せられつつある事は、誠に喜ばしき事と思います。その結果、ブラスバンド・ハ・モニカバンド・アコ・ディオンバンドに合唱へと急速なる発展をして居りますが、あらゆる点で恵まれている各都会地はまだしも、遠く離れた地方では特に其の必要性を承知しつつも、其の設備に或いは又その指導者に恵まれず、未だしの感を深くする物であり残念な事に思っています。この点合唱などは最も実行し易い種類のものではないかと考え、日頃から其の発展を心から願って居る次第であります。

今回の此の催しが一部の人々の尚早論を退けて断然決行せられ、各工場産報会員の総元締である産報本部が他に先がけて催されたという事が、結果に於いて大成功であった事と思い合わせて、大いなる敬意を表するものであります。

今回参加せられましたる合唱団は、私共東京リ・ダ・タ・フェル・フェラインの他に日本合唱団、東京合唱団紫会合唱団、コーロフロ・ラの諸団体であり、東京・神奈川・埼玉・千葉・群馬・栃木と29ヶ所を巡回いたしました。私共は此の中、東京・神奈川・群馬・千葉と14工場を巡り、各合唱団共々大感激裡に無事役目を果たせた事を幸いと思っています。

此の巡回によって得た尊い体験は、合唱団のメンバ・諸氏共々忘れられない感激として、合唱団の使命の並々ならぬ事を痛感いたしました訳であります。今回は産報本部選定歌の指導と共に合唱団の活躍を期待せられたものでありまして、其の間感じた2,3の問題に就いてお話して見度いと思います。

(1) 工場の規律と合唱団への希望

巡回中殊に敬服いたしましたのが各工場の規律の厳格な事です。すべてが軍隊式です。銃後産業陣の力強さを感じさせられます。そこで合唱隊の動作という事を考えない訳には行きません。何も工場巡回のみ限った事ではありません。普通合唱会の場合でも同様な事は有りますが、此の事は団体動作を何よりも必要とする合唱隊にとって、重要な問題と心得ます。

仮にも工場に行くんだからといった様な軽い考えで出向いたなら大変な失敗です。ステ・ジばかりの問題ではありません。工場への入門から退場まで一挙一動に細心の注意を希望いたし度いと思います。合唱される場所が工場内の仮舞台、工場内空地の野天、食堂の臨時舞台といったお粗末なものです。こうした場合兎に角気持の上に知らず知らず緩みのあるものです。此の場合こそ立派な合唱と共に立派な動作が欲しいのです。工員諸氏に合唱の良さと共に団体動作のお手本を示し度いのもです。然しながら決してコチコチに堅くなれというのではない事は勿論であります。

(2) 合唱隊の服装に関して

勿論揃えるという事は団体として必要な事であり揃へて欲しいと思いますが、それとても絶対地味である事を必要とします。特に女性の方々には一番難しい問題の様に考えられます。普通演

奏会とは違います。働いている方々即ち聴き手は皆油に滲みた労働服です。合唱隊の男性の方々には此の点申上げ易い事と思いますが、矢張り服装の事となると女の方々に希望を申上げる様になります。

きらびやかな色とりどりの方々のステ - ジ姿、そして拍手を浴びて美声を高らかに歌われる。工務員諸氏がどんな事を考えられるか、特に若い女子工員の皆さんの事に思いをいたす時想像してあげて下さい。恐ろしい事と思います。数ある皆さんの中には一寸でも淋しい気分になったり、自分の仕事を考えられたりする方も居られる事と思います。激励の会が慰安の会が元も子もなくなります。(考え方が思いといわれればそれまでですが。)考えさせない様にする事が一番いい事です。演奏の態度と相俟って服装の事、特にご配慮の程お願い申上げ度いと思います。

(3) どんな曲目を持参したらよいのだろう

この問題で一番考えさせられる事は、都市と地方工場との違いです。

実地にぶつかって成程と思った事が再三ありますが、都市工場工員諸氏の中には充分合唱のハ - モニ - の良悪を批評出来る人達が居り、各自が合唱団を組織して居られるといった工場も少なくなく(こんな所ばかりではありませんが)持参曲目中に相当な合唱曲を組み入れていって喜ばれた事もあります。地方の例えば紡績工場的女子工員だけといへ工場等では(一般工場でも大体に於いてそうですが)矢張り既知の曲目親しみやすいもの程効果が上がる様です。工場工員の人達にハ - モニ - が判るものかという人がいたら大変な間違いです。二部三部四部、ソロで表わせない力強さはどこの地方でも喜んで戴けたと思っています。勿論斉唱のものも持参すべきです。合唱団の力強さを独唱と違った何ものかを皆さんの胸中に叩き込める事を確信します。兎に角国民歌謡に、レコ - ドに、そして昔ながらの曲目、おなじみの深い曲目を沢山用意して、時間の許す限り機会ある毎にお慰めし度いと思っています。

(4) 指導者の態度と導き方

指導する相手の方々が皆此の重大時局下の重要産業の戦士であるという事を絶えず心して、其の場に望むことが第一です。工員諸氏は第一線の将兵に負けない元気の人達ばかりです。指導する方々も其の元気に押されぬ様ゆき度いものです。或時は厳然たる態度で参りましょう。或時は朗らかな本当に家庭に入った様な朗らかさで参りましょう。徹頭徹尾紋付羽織袴では困ります。

指導者自身がハンマ - を振る積りで、油に滲んだ工場内の生活にすっかり融け込んだ積りになりたいものです。それでこそ打ち解けた気持で朗らかに元気で心の底から歌い合わせる事ができます。

指導は堂々と厳然たる態度を始めましょう。そして朗らかに和やかに進みましょう、指導者と歌手が一体となって、軽いギャグの一つも出して場内が心からニコニコ顔で歌える様になれば大成功でしょう。歌っている皆さんの顔が紅をさして本当に熱心に歌って下さいます。一緒に歌っていて何かグッと胸にこたえるものがあるのがあって指導が終わります。職場でのご苦労に対して充分の感謝の気持で堂々と終わりを告げましょう。

(5) 伴奏楽器について

先ず伴奏楽器の有無が問題です。殆ど各工場に常備されているところは無いというのが現状でしょう。今回の催しのため他の場所からわざわざ運搬された工場も有った様ですが、この様な手数のかかる事は出来るだけ省いてあげ度いと思います。指導に合唱に先ず伴奏楽器として選ばれるが勿論ピアノでしょう。このピアノが有りません。多くの工場がオルガンを用意していた様で

すが、故障の多いのが殆どです。音の出ないキ - が三ヶ所も有ったり、演奏に直面して魂を冷やす事も有るといった訳で安心が出来ません。私共はこの際どんな片田舎でも山奥でも携帯に便利で然も演奏効果（これは実地に見聞して判ります）100%である、アコ - ディオンを推薦したいと思います。特に地方の方々が此の楽器の独奏等を所望さるる事は切なるものがあり、其の喜び方も一通りのものではありません。或歌手がアコ - ディオンの伴奏では歌えないと断ったという話がありますが、成程アコ - ディオンで弾けないものもありましょうが、少なくとも工場巡回という使命を持って挺身する場合、アコ - ディオンが工場でお聞かせする喜んで戴ける様な曲目ならば、何でも持って来いの楽器である事を、前記の様な人々にご承知願いたいものです。巡回の結果が工場員諸氏に非常な感銘を与え得た楽器として特記させて戴きました。いづれにしても工場の設備（たとえばマイクロフォンとか伴奏楽器或いはステ - ジ）に万全の期待はおかけにならぬ事です。望む方が無理な話です。係りの方々が忙しい仕事の余暇に精々のご準備下さる事に総べて感謝し、不足の点は吾々の熱と元気で埋合わせ覚悟で参りたいと思っています。

種々まとまりの無い事を書きましたが、今回の巡回演奏が始から終わりまで感激の連続であり、特に決戦下銃後の合唱運動として全国各合唱団各位の此の方面に於ける大活躍を期待申し上げて、此の稿を終わりといたします。

歌唱指導に就いて 袖珍音楽指導者講座

秋山日出夫

「音楽の友」昭和18年3月号

序詞

輝かしい戦果に戦果を重ねて此処に、新しく大東亜戦下の新春を迎えるに当って皇軍将兵の血みどろなご奮闘に対して感謝し、一億民等しく勝抜くその固い固い決意を以って、此の戦果に応え度いと思えます。

銃後の決意は挙って増産へ、一途に邁進第一戦に劣らぬ力闘が日夜の別無く繰返されている様であります。

全国民皆唱運動が提唱せられまする所以も、この一億の人々が心から元気明朗に5年、10年、百年を勝ち抜くための意気昂揚に他ならぬのでありまして、勝ち抜いた暁にこそ大東亜の空いっぱいに鳴り渡る、黎明の鐘に合わせて全世界に響けと10億のアジア民族が手に手を取って、心ゆくばかりの声高らかに歌える日が来るのであります。

ここに音楽が一部の人のいう有閑人の暇つぶし、病弱人の慰め事との心無い言い草を尻目に「音楽は軍需品なり」と、其の認識を更め堂々戦時下第一戦に動員せられて参ったのであります。

老いも若きも男女も問わず一つになって歌おうと言うのです。そして元気な朗らかな毎日を、増産へ増産へと一直線に進もうと言うのです。全国民皆唱に当って指導の責任が如何に重いものかは今更言をまちません。指導者の挺身如何こそ皆唱運動の鍵であります。

以下、指揮に当られる皆様に種々お願い申上げ、更に更に挺身ご奮闘戴けます様お願い申上げる次第であります。

歌に対する理解

歌う人々がどれだけ歌うための知識を有っているかという事を考えて見ましょう。

この点大変残念ながら、殆どの人々が百人中九十九人迄、歌うための文字楽譜の読み方についての知識はないものと考えてよい状態でしょう。この人達に歌ってもらおうと言うのですから指導者に責任が有るわけです。

これらの人達の誰にでも易々と歌うことの楽しい事を味わってもらえる様に、そして更に歌いたいという気持ちを根付けて行かなければならないのです。今の国民学校の生徒諸君が、卒業の暁には年と共にこの点非常に楽になる事と考えます。そして皆唱運動にも拍車かけられる事と楽しみにして居ります。では如何いう風に導いていったらよいでしょうか。

歌う機会を多く与えてあげて下さい

人間と生まれて生まれながらにして歌う事の嫌いだという人は、まずないでしょう(お子さんをお持ちの方にはようくお解かりの事と思えます)。嫌いだといっている人達でも、歌う機会さえ度々与えてあげたなら必ず親しんで来るものです。

食わず嫌いという言葉が有りますが、食べてみて始めて美味さが判るのであり、皆が大声で所謂ゆる声の良いも悪いも一つになって歌ってみて、始てその良さが判るのです。食わず嫌いの人達が如何に多いかを考えて導きたいと思います。先ず歌ってもらう事です。

あの人達には歌など不向きだ、とても歌えるものではないなどと考えることが既に間違いであり、絶対歌える人達だと考えて指導に当って戴き度いと思います。私の経験した中のほんの一例にしか過ぎませんがこんな話が有ります。或工場で従業員の方々に歌わせたいという希望があつたので張切って出かけたものです。ところが行ってみて驚きました。60名程の人達でしたが40歳から50歳位の男子ばかり、中には60歳に近い人が5・6人も交じっていて何が始まるのかといった様な頼りない顔がずらりと並んでいるのです。

考え様によっては凡そ歌に縁の遠い存在なのです(この考えがいけないのです)。指導者の張合いではこういう所こそ、歌わせがいがあるわけです。ところが5分、10分と指導してみても驚きました。これらの人達には遠慮が無い。飾り気がない。良い声で聴かせてやろう等という体裁を作ることをしてしない。従って実に心の底から大きな声で歌いまくられ、然も間違っ歌うのも堂々とやるといった調子、お互いが腹を抱えて笑い出すという具合で、僅か20分で『今年の燕』を覚えてくれました。老人連中の中には入れ歯をもぐもぐさせて歌っている者もあるというわけで、其の後は毎月伺っていますが、或村の話で老人の一人が家へ帰って『今年の燕』を孫に教えてやったところ、お爺さんは気が狂ったと言って大笑いしたという事でしたが、其の家の和やかな朗らかな情景を思い出して、本当に嬉しく感じました。こんな風で此処の工場は益々元気に、職場は朗らかに増産へ邁進して居ります。兎に角先ず歌う機会を与える事の必要さを痛感いたすものであります。

歌唱指導に就いて(二) 袖珍音楽指導者講座

秋山日出夫

「音楽の友」昭和18年6月号

先ず体験から

前回歌う機会を極力与えよと申し述べましたが、相当数の工員を持っている工場或いは会社といった集団生活を営んで居る人達は、此の点では非常に恵まれている訳で、当事者の理解一つで何時でも集合の便が得られ指導も容易であるという事が出来ますが、それ以外の人達に就いては、集合するということが既に難しい事です。これらの人々には何らかの集合、例えば映画の会とか式典或いは慰安会といった様な機会を捉えて目で見て楽しむ聞いて楽しむという以外に、自ら歌って元気に朗らかなになるといった風を養い度いと思います。此の点で私は隣組全国の当会に呼びかけて、此の機会に歌う事が出来れば理想的な一億皆唱の基礎が出来るものと考えています。

一億皆唱は先ず隣組からと申上げる次第であります。

歌唱指導の方法

ではどういう方法で指導するかをお話しましょう。それには、ラジオ、レコードを利用する方法も有りますが、ラジオ、レコードの様に機械を通じての指導では何と云っても感銘が少なく意気も昂りません。特に好きな人達のみを対象になり勝である事は否めません。一億皆唱の目的からいってどうしても、指導者が直接歌唱者に面とぶつかっていく方法が第一であると考えます。

口述法に就いて

一番簡単でお互いが親しみ易い方法、相手の人達が殆ど楽譜の読めないという事を考えて、此の口述法による外ないと考えます。

先ず導こうとする歌を指導者が一通り歌って見せます。それに依って歌の内容を大凡掴ませる事です。次に軍隊の軍歌行進、ご承知の様な反復歌唱の方法を取って参ります。先ず指導者が歌い歌唱者がそれに和するという方法です。此の反復を一番の歌について三回程繰返します。どんな人達の集まりでも何とか曲がりなりにも歌える様になります。そこで曲を通して三回程歌います。此の間に指導者が其の集会の人達に応じ其の気分に融け入る事です。その如何こそ指導達成の成否で、何とかして歌というものが易しいものだ、朗らかな元気なものだという空気を作らなければならないのです。

さて一つの歌を覚えてもらうのにどの位の時間が要るかという、覚えの良いと見られる集会で長くて15分間あれば充分でしょう。相当困難と思われる所でも20分間あれば絶対歌える様になります。20分以上掛かってまだ歌にならぬというのでしたら指導者は自己の指導方法について考え直さねばならないでしょう。此の場合歌唱者に歌というものは難しいものだという気持を持たせる事になり、折角の骨折りも無駄になるばかりか1億皆唱に暗い一点を印する訳であります。指導者の責任たるや実に重大であります。

仮に歌唱者が100人有ったとします。此の中には所謂歌の好きな覚えの良い人が必ず1割は

居ますから、歌えない人を一々指摘する様な事はせずとも歌うにつれて、早く覚えた人が知らず識らずの中に先達と言う事になって、覚えない人の隣から前後から自然と間違いを是正してくれる結果になります。反復は1番の歌詞のみで行い、充分覚えた所で2番3番と通せば思ったより簡単に進むものです。

最初堅くなっていた人達が歌うにつれて顔色も良くなり、笑い顔さえ見せて朗らかに歌って呉れる様になった時こそ、一度指導に当られた人達なら決して忘れられぬ喜びだと思えます。